

## 機械工学科 学習・教育目標

本学機械工学科は、自らの創造性を発揮して「ものづくり」を実践できる機械技術者の育成を目的としており、次に示す機械工学の基礎知識とその応用能力を学生に獲得させることを目標としている。

- (1) 歴史、宗教観、文化、生活環境の異なる人間がお互いの違いを認めあい、地球に存在する「人類」として共に助け合い協調して生きてゆくために必要な知識と能力を養う。
- (2) 技術が社会と自然に及ぼす影響と効果を多面的に判断する能力を身につけ、技術者の社会的責任を自覚できる能力を養う。
- (3) 「ものづくり」の基礎として数学、物理学などの基礎工学を習得し、また、情報の収集・処理・解析能力を養う。
- (4) 「ものづくり」の設計段階において必要な機械工学基礎知識である4力学(材料力学、機械力学、熱力学、流体力学)を習得し、また、設計した「もの」を「かたち」として具象化するのに必要な製図法、CAEを習得する。
- (5) 具象化した「もの」の「かたち」を実際に生産するのに必要な材料工学、生産加工学を習得し、あわせて「ものづくり」の設計段階への応用能力を養う。
- (6) 機械工学およびそれ以外の科学技術分野の知識を活用し、社会からの要請を「ものづくり」に反映させる能力を養う。
- (7) 共同作業における協調性と、自らの考えや主張を正しく伝えたり討論できる会話・文書作成・プレゼンテーション能力を養う。
- (8) さまざまな国際的場面において意思疎通のはかれる英語力を養う。
- (9) 自発的に学習計画を立て、自ら継続的に学習する能力を養う。
- (10) 与えられた課題を一定期間内に達成できるような計画性と実行力を培うとともに、得られた結果を正しく点検評価する能力を養う。